



中村ロータリークラブ

例会記録 (2024～2025)

会 長/嶋 村 晃

幹 事/山 崎 隆 之

会報委員長/大 塚 和 助

創 立/昭和38年10月2日

例会日/水曜日 12:30～13:30

例会場/新ロイヤルホテル四万十

事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F

TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553

●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2822

第2953回 令和7年1月29日（曇り）

本日のプログラム：会員スピーチ 鳥谷恵生会員

2月5日(水)：会員スピーチ 高知分区IM報告

2月12日(水)：ゲストスピーチ

【会長挨拶】嶋村 晃会長

オトポール事件というのをご存じでしょうか。東洋のシンドラと云われ抜群の知名度を誇る杉原千畝が命のビザを発給する2年前。1938年3月。ソビエトと満州国の国境の町オトポールに、2万人のユダヤ人たちがドイツによる迫害を逃れて押し寄せてきました。3月とは言え極寒の地シベリアでは凍死者も出始めています。1938年、盧溝橋事件の翌年。関東軍司令部付のハルビン特務機関長であった樋口季一郎は自らの失脚も覚悟して救出を決意。即日ユダヤ人への給食と衣類、燃料の配給。そして衰弱した者への医療を実施。また、南満洲鉄道総裁であった松岡洋右に特別列車の運行を直談判し2万人の難民を上海まで送り届けました。この厳しい長旅の途中で孤児となった子供たちを日本の施設に収容し手厚く保護されました。この方法はヒグチルートと言われ、その後も多くのユダヤ人難民の救出に使われることになります。当然ドイツからは猛烈な抗議が来ます。が、樋口の上官であった東条英機参謀長は、「こと人道についての事柄であり、軍事的協力関係とは全くもって無関係だ」と、その抗議を跳ね返します。

その2年後に杉原千畝が6千名の命のビザを発行します。3名のチームプレーが存在したのではないかと私は勝手に考えています。

【幹事報告】山崎 隆之幹事

- ・ガバナー事務所より地区大会のご案内
4/25（金）記念ゴルフ大会
4/26（土）本会議、大懇親会
- ・ガバナーエレクト事務所より
1) 次年度地区役員、委員への委嘱状
東 邦彦PG、大塚和助会員、青木史仁会員
2) 地区研修・協議会のご案内
3/30（日）県民文化ホール 他
- ・四万十RCより
5クラブ（仁淀・須崎・宿毛・中村・四万十） 4/6（日）四万十CC

【家庭集会のご案内】

- ・社会奉仕・青少年奉仕委員会
2/12（水）厨房わかまつ
- ・職業奉仕・国際奉仕委員会
2/19（水）吾妻料理店



【本日のプログラム】 会員スピーチ 鳥谷恵生会員



自然と人に優しい四万十の農業政策

皆様こんにちは。本日は「自然と人に優しい四万十の農業政策」ということですが、改めまして自己紹介から始めさせていただきます。（スライド参照）

私は1989年四万十市江ノ村で生まれました。中学校ではソフトテニスに明け暮れ明德義塾学校へ進学しましたが、17歳の頃無茶をしすぎてメンタルが壊れ、校舎から飛び降りたり、森沢の山にこもったりの少年期でした。

これではだめだということで、21歳の時、ケニアのマサイ族の村に井戸掘りにいったりしていました。その後、帰ってきて土佐山開発農業公社にて農業研修にも行きました。

27歳の時、オーガニック系の農産物卸会社で働いたり、南国市の高生連で農家の販路開拓などを行いました。鳥谷家は代々農業を営んでいたもので、私は食に関する環境問題等に対して興味を持っていました。

32歳の時、日本の食料安全保障に貢献したいと思い議員に立候補し、何とか当選することができました。現在、積極財政を推進する地方議員連盟、高知オーガニック議員連盟に加入しています。

今一番に取り組んでいるのは「米粉製粉工場の建設プロジェクト」です。現在、日本の食に関する自給率は38%です。国家の安全保障である食の自給率は本当に低くなっています。つまり、農業従事者もどんどん少なくなり、毎年約6万人づつ減ってきています。また、日本人の食生活も米離れというか、ごはんからパン食へと大きく変化してきました。そんな中、私は、もう一度日本の農業、稲作について何とか生きる方法はないかと考え、四万十市に米粉の製粉工場建設の事業化を考えております。

現在、米粉の製粉技術は随分発展し、味に関しても小麦粉製品と同等の品質となってきています。つまり、四万十で栽培されたお米を製粉し、全国に販売していこうということです。米粉パンやクッキー、うどん、パスタ、ラーメン、お好み焼きなど幅広く需要はあります。また、高知市では学校給食にも地元食材の米粉を使用しています。県内では、高生連が主導となり、JAれいほくの米粉工場が稼働しておりますが、まだまだ需要に追いつけず、供給不足となっているのが現状です。

私は、その事業を四万十市でやりたいと考えています。そのためにはまず、四万十川の生態系を守るための農法が必要です。化学薬品の農業や肥料をできるだけ減らし環境に優しい農法でできるお米を使用した米粉を作りたいと思っています。

建築工場の場所は、具同の工業団地の約487坪を予定しております。現在、準備段階の組織を立ち上げ、来年度中に法人化、補助金申請、2026年度に工場完成、2027年度から稼働できるように計画しております。皆様にもご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

また、耕作放棄地を解消するための柑橘プロジェクトも考えております。四万十市では現在、「ぶしゅかん」を産地化しておりますが、もう一つ、「ベルガモット」というレモンに近いミカン科の植物です。非常に香りが良く香料や石鹸の原料として使われています。

これからの世の中、様々な変化に対応するため、できるできないはともかくとして、情報の窓口は幅広くしておくことは重要だと考えております。

ご静聴ありがとうございました。

【ニコニコ箱】

鳥谷会員：今日は発表させていただきました。

【出席報告】 ・会員総数59名（免除会員6名）

・本日の出席/37名 75.58%

・先週の訂正 M4 79.59%→87.71%